

東京東村山ロータリークラブにおける SDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献する内容

・目標1【貧困をなくそう】に関して

- ① 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、東村山市社会福祉協議会を通じて、父子、母子等一人親家庭に生活必需品を送る活動。
- ② （一般財団法人）比国育英会バギオ基金に、後援資金を提供しています。

1903年、日本人125名が東洋汽船の香港丸（汽船）でマニラ港に錨を下したのがこの基金の歴史の始まりです。フィリピンに渡航した日本人は53,000名。その大半は、マニラからバギオに続く道路建設に従事。難工事で多くの犠牲を払い漸く完成。日本人の評価を高めた。道路完成後、残った日本人達は現地の人と結婚し、商店や学校が出来、邦人社会が建設されていた。

しかし、第2次世界大戦が始まると、フィリピンは日米最大の激戦地となり、この戦いで60万人の内、生還できたのは、僅か10万人。戦後は、日系人と分かれば、激しい報復と迫害を受け、生き残った母子は山の奥深くへ生き延びた。そんな捨てられた民に手を差し伸べたのが、カトリック修道女「シスター・海野（ウンノ）」でした。想像を絶する貧しい生活をしていた人達を一人ひとり探し出し、救済し、生活の向上や育英に心血を注がれた。そんなシスター海野の素晴らしい業績を継承し、残された子供達の教育に必要な奨学金を提供し、この国のために有為な人材を育てるお手伝いをする。それが、バギオ基金です。

2021年6月現在奨学金を与えた学生数3,942名。受け入れ学生数14名。後援・関係クラブ数399。（全国34地区）。後援者数4,077名。受入寄付金総額406,291,000（この1年間で+830万円）。バギオ基金こそ、まさにロータリーのやるべき「世界社会奉仕委員会」の仕事だと思い、教育の大切さ、育英事業（識字率の向上）の一環としても、多くの会員の協力を得て進行中の事業です。

・目標3【すべての人に保健と福祉を】に関して

- ① 「ポリオプラス」の活動を実施中

ロータリーは35年以上、ポリオを世界から根絶するための活動を続け、大きな進展を遂げてきました。世界ポリオ根絶推進活動（GPEI）を立ち上げたパートナーとして、ロータリーはポリオの症例を99.9%減らす貢献をしてきました。現在は、野生株ポリオウイルスが存在する2カ国からポリオを完全に根絶し、ほかの国々をポリオフリー（ポリオのない状態）に保つことが重要です。根絶活動を今ストップしなかった場合、10年後には、年に20万人もの子どもがポリオによるまひ障害に侵される可能性があります。

- ② 「疾病予防と治療月間」として、毎年12月に活動を実施しています。

・目標4【質の高い教育をみんなに】に関して

- ① 「識字率向上」を過去数十年間実施中。
- ② 日本のロータリアン米山梅吉の偉業を記念してその名前を冠した【米山奨学金】を米山奨学生に授与して、主に東南アジアの学生を支援し、日本と当該国の友好の橋渡しをする人材を育てています。
- ③ 青少年交換委員会として、世界の学生と日本の学生を交換して、各国にホームステイして、当該国の生きた勉強をしてもらい、将来、両国の親善の橋渡しをしてもらえるように支援している。
- ④ 中学生の「税についての作文」について、毎年、東京東村山ロータリークラブ会長賞を贈呈しています。税について関心を持ち、正しい理解を深めていただき、将来を担う中学生の社会への関心や見識を讃えて、支援しています。

・目標6【安全な水とトイレを世界中に】に関して

- ① 毎年3月は、「水と衛生月間」として、活動を行っています。
- ② 東京東村山ロータリークラブは、空堀川の清掃活動をはじめ、神田川や、荒川などの河川の清掃活動を、主催、支援、協力しています。

・目標16【平和と公正をすべての人に】に関して

- ① 毎年2月は、「平和構築と紛争防止」の月間として活動をしています。

以上